

第6回 阪南市総合計画審議会

日時：令和3年8月16日（月） 10:00～12:00

場所：阪南市役所 別館1階 第2会議室

【基本構想について】

- ・第2章の基本目標の第2節、親が子育てと仕事の両立ができるだけが、地域の人が子育てに持っている課題ではない。
→「子育てが安心してできるように」というその上で地域の人が子育てについて学び、色々なフォローがあるよということ
- ・NPO 団体も行政と一緒にやっていくという強調する文言が欲しい。
- ・ONE ACTION のイメージは、先進技術だけでなく、市民にとって親しみやすい行動を狙ったものも必要と考える
- ・子育ては働いていない人もいるため、総合的に子育てに対する安心感や居場所づくりといった視点でまとめることが必要
- ・地域の人々が子育てについて学ぶというのは、ハードルが高いように思える。
→理解を深めるといった表現ではどうか。
- ・基本構想・基本計画は別冊か合冊か
- ・基本目標について、12年後のまちがどうなっているか、その様子を2～3行で記載するのはどうか。
- ・土地利用について、観光連携軸の表記を工夫
- ・将来人口推計の人数を記載
- ・重点基本方針と基本目標との整合性が取れていない箇所がある。重点基本方針の良い部分を基本目標―基本計画へ反映してもらいたい。
→例えば、公民館活動の計画を見ると、青少年を対象とした文言が入っていない など
- ・阪南市といえば●●といった共通したイメージを描けることが望ましい。
- ・阪南市をイメージするときに、共通イメージを抱いてもらいたいターゲットはどこなのか。
- ・総合計画について、市民へ周知する方法のひとつとして、YouTube を利用するのはどうか。

◆委員長

- ・地域の人々が子育てについて学びという表現は、自分の子どもだけでなく、地域の子どもと一緒に育てるといった未来志向の子育てへの接続となるため、手法や考え方をしっかりと整理する必要がある
- ・ONE ACTION は、都市間競争・地域間競争から抜け出すための一歩を記すことが重要
- ・基本計画の見方を記載

【基本計画】

- ・自然環境が恵まれているとあるが、山・海の魅力は全国たくさんある。カキ小屋の取組を取り上げるなど、他のまちとの差別化が必要
- ・基本構想から、基本計画へつながりがみえる構成をまとめてほしい。
- ・12年後を想定して書くことは難しいが、今後事業をやっていく時にどれだけ新たな事業を想定して本当は書いておいて欲しい。
- ・持続可能というのは、手作業でゆっくりと自然の回復スピードにあった順応型のマネジメントが必要。
- ・人づくり、コミュニティづくりの中に置き換えると、やはり人々の成熟スピードをすなわち、あまりまち作りに経験がない方、プレイヤーとして大活躍されている方、色々な方の熟度は異なる。
- ・役所の年度予算でなくて2年、3年に予算を回していけるような、人づくりのための順応型のまちづくりも必要。
- ・人口が増えるという目標像よりも、やはりきちんとまちの継承ができる、あるいは継承ができる安心感が持てるような将来像が望ましい。
- ・パンデミックや、将来、生活困窮に関係する文言が入る箇所がほとんどない。

「幼児教育・保育」

- ・子どもが豊かに育つためには保護者の方の支えがないといけない。
- ・園と親との信頼関係がものすごく築かれているが、時代の中ですごく難しくなっているので、そういう方向も出来たら入れてもらいたい。
- ・教育アドバイザーはどういう人が選定されるのか。
→信頼がおけるのか、認定基準は何か等、内容が気になる。
- ・日常的に聞ける場所や不安があった時に相談する場所を提供していますと示す部分が不十分
→園庭開放等のタイミングでの相談の場だけでは、不安は解消されないと考えられる。
- ・児童虐待については、幼児期の虐待の件数の方が多いと考えられる。福祉と教育のつながりを重視したまとめの項目をつくるなども必要ではないか。
→貧困問題や虐待問題にスポットを当てることも必要。
- ・働き方が多様になってきていることを踏まえ、ワーケーションなどの文言も検討いただきたい。
- ・各地方から古民家や空き家活用して来てくれていて、そういうコミュニティをどうやって繋いでいくかという問題が発生している。

「学校教育」

- ・小学校に上がった際に、発達に課題のある子どもは支援が必要。そういった点も記載するの

はどうか。

- ・「教員自らが子どもたちの心情や環境を深く理解するよう努めます。」の部分から指標が立つと考えにくい。
 - 施策の柱ごとに専門家等を据えた、個別検討会議が必要ではないか。
- ・子どもの権利条例のキーワードが多くなってきている。条例に沿った施策項目を作り、目標を掲げることも必要ではないか。
- ・学力テストの結果をみると、大阪南部は点数が落ちている。教育に対する捉え方をしっかりと考えるべきではないか。
 - 教育委員会と連携し、子どもが各教科に関心を持って臨める環境づくり など

「障がい者福祉」

- ・障がい等を無理に切り分けると、グレーゾーンといった話になる。あまり強調する必要はないように思える。

「生涯学習」

- ・生涯学習の部分に、“遊び”の要素を入れていただいた。しかしながら、教育・保育においては遊びが重要になってきているのにも関わらず、基本計画上にはその要素がほとんど入っていない。

「歴史・文化」

- ・将来的な観点から課題を書くといい。

「移住・定住」

- ・移住・定住を項目化しているのは良い。
 - 相談員の配置や受付、セミナーを開催するなどの取組を記載することで、近隣と差別化
- ・関係人口か交流人口の使いわけができていますか。

「生涯スポーツ」

- ・日頃からスポーツに取り組んでいない層も対象とできるように、ハードルを下げることも必要。
- ・生涯スポーツを浸透させていきたいならば、公園でボールを使えるようにするなどの、ハードルを下げる検討が必要。

◆委員長

- ・摂津市の事例「マミークリスタル」：子どもだけでなく、親も輝ける活動。
 - 子育て＝子どもの支援だけではない。親もいきいきとする支援が必要。

- ・基本計画において、各施策を一言で表すとどういうことが言えるのかという表現が重要。
- ・世界的・社会的変化が「ONE ACTION」につながることを望ましい。
 - 今までチャレンジできていること、できていないことを課題に記すことも検討が必要。
- ・これからは個性に着目した施策展開を行っていくようになると考えられる。グレーゾーンという考え方はこの際なくして考えた方がよい。
- ・基本構想・基本計画と対応する一覧表の作成が必要。
- ・現状と課題に関しては、問題点だけでなく、阪南市の良いところや取組も記す形にしてはどうか。
- ・施策項目が、他の項目とも関連しているといったインデックスや重点の組み合わせなどの全体の関係性を示す形でまとめるとよい。
- ・古民家活用や歴史まちづくりなど、文化財行政を発展させる考え方で要素を結び付けて、施策に記せるとよい。
- ・人口は、量的なものを追いかけるのではなく、質的なものを目標設定に据えることが望ましい。
- ・対応する部署がどこにもないから、パンデミック等の記載は見られないのではないか。
- ・地域居住の捉え方になってくるが、移住促進の担当者を配置することも検討しないといけない。

以上